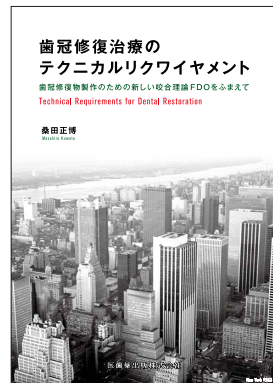


“世界のクワタ”による「理論」と「実際」の集大成

『歯冠修復治療の テクニカルリクワイヤメント』を読んで

コアデンタルラボ横浜（横浜市港南区）

陸 誠 Makoto Kuga



桑田正博 著

定価：24,200 円

（本体 22,000円+税 10%）

A4 判カラー／256 頁

医歯薬出版株式会社 刊

桑田正博先生がお亡くなりになられてから、早一年が経過しようとしている。私の中ではまだ信じられず、どこかの学会に行くたびにお会いできるのではと思う時がある。この本を手にした瞬間、製本や紙質のしっかりとした感覚もそうだが、今まで桑田先生が執筆されたどの書籍よりも、何だか重たく感じられたのは私だけではないと思っている。

まず目に飛び込んでくるのが、表紙に使われている1962年のニューヨークの写真。それを見た瞬間、当時の桑田先生はどのような気持ちで日本を離れ、ニューヨークに行かれたのかを想像し、そして本の扉を開く前に「まず正座して、心して読み始めなさい」と言われているような気がした。

最初に、桑田フィロソフィーの根底となっているコンセプトの説明に始まり、前半は、2019年1月～12月号まで月刊『歯科技工』に連載されていた、「天然歯形態の捉え方」の内容がまとめられている。桑田先生は多くの書籍や文献を執筆されており、私もその多くを見てきたが、このような天然歯の形態についての解説は初めてであった。我々に口頭で説明していただいたものがわかりやすく解説されている、貴重な文献だと感じる。その後は今まで発

表されてきた、骨格技法や三角構造理論、アナトミカルシェーディングテクニックなどが解説されている。

また、フルマウスリコンストラクションにおけるFDO（Functionally Discluded Occlusion）の実践について、ご自身が身をもって体験するかたちで、自身の症例を使って解説されている様子は、まさに桑田先生らしいところである。歯科界には「咬合」といっても、多くの咬合理論や様式、術式がある。その中で、FGPテクニックからグループファンクションを支持し、臨床的に生体が最も許容し誰もが手掛けられる咬合を模索し、FDOと名付け、機能的な咬合が得られるための咬合様式を往年確立されてきた。その後に掲載されている天然歯の咬合調整においては、コースの中でも毎回力を入れて説明されていたのを覚えている。これらを通じて実際の臨床における咬合の大切さを、再確認した方も多いのではないだろうか。

最後のチャプターでは、PFM（Porcelain Fused to Metal）の開発を含め、桑田先生の人生における歴史が刻まれている。改めてその歩みを見ると、どうしてこのように濃厚な人生を送れたのかと、偉大さを再認識させられた。桑田先生の書籍をあまり読まれてこな

かった方々も、本書を読むことにより先生の考えが読み取れ、また、今までの出版物を読まれている方々にも、集大成となるまとめの書として読める構成になっており、編集等に関わられた方々の苦勞を感じ取れる一冊となっている。

桑田先生が日本で教えてこられたフィロソフィーを、これから世界中に伝えるために、活動されていた最中での他界であった。先生の講演やクワタカレッジを受講して、技工技術やテクニックにとどまらず、人生観まで大きく変わったという人も、少なくないのではないだろうか。私自身も桑田先生と出会って、人生が大きく変わった1人である。

この書籍を前にすると「理論と実際を調和させるためには、『何故の追求』を念頭に仕事をしなさい」という、先生の声が聞こえてきそうである。我々桑田先生の門下生にとっては、口癖でもあった「学んだ多くのことを後世に伝えていく」ことへの大きな使命を感じる一冊となっている。